

<b>指定管理者評価シート</b>
-------------------

事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

**I 基本情報**

<b>1 施設の概要</b>			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別区厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017㎡
目的	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通じて、創造性豊かな青少年の育成を図る		
事業概要	① 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
<b>2 指定管理者</b>			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため ・ 科学館の管理運営を平成11年から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門的人材等を有しているため		
指定単位	施設数: 1 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
<b>3 評価単位</b>	施設数: 1 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

## II 令和4年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>「学校教育との連携」、「生涯学習の推進」、「地域・各種団体との連携」、「効率的かつ安心・安全な管理運営」を基本方針・基本目標に掲げ、「科学を育てるまちづくり」の推進に寄与した。</p>	<p>これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを活かし、高度な学習機会を提供することができた。</p>	<p>A B C D</p> <p>これまでの経験、ノウハウを活かした学習機会の提供を実施していることを評価する。引き続き、幅広い世代の市民に親しまれる事業の実施を期待する。</p>
	<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、観覧料の減免等についても適正に取扱った。</p>	<p>条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報を通して、団体・一般客の平等利用に努めた。</p>	<p>条例・規則等に基づいた平等利用の取組を実施していることを評価する。引き続き、適切な取扱いを期待す</p>
	<p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>▼ 電気、水道、地域熱等の使用については、空調設備及び電気設備業者等と連携を取り、より良い節約方法を模索し、実施した。</p> <p>▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。</p>	<p>コロナ禍以前に比べ、感染症対策のための空調の活用やこまめな換気による冷暖房の使用が増えているが、その中でも可能な限り効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。改修工事期間においては、工事業者と連携を図り、可能な限り節電できるよう調整した。</p>	<p>他業者とも連携を図り、効率的なエネルギー運用ができる環境整備を実施したことを評価する。</p>
	<p>▼ 「環境科学展(パネル展)」の開催や環境に関する常設展示物の展示等により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRに努めた。</p>	<p>近隣の企業や団体等と連携した環境問題等を学べるパネル展「環境科学展」の開催や、展示室内の太陽光パネルの発電量を示すモニターなどにより、市民に対して広く省エネ・環境配慮に関する取組みについて周知することができた。</p>	<p>近隣企業と連携を図り、「環境科学展」の実施方法を工夫することで、市民の関心を集めるような事業を実施したことを評価する。展示室内の太陽光パネルの発電量を示すモニターについては、展示リニューアルによって撤去する予定のため、これに代わる市民の環境配慮への関心を高められるような工夫を期待する。</p>

▼ 省エネ・環境への興味関心を喚起するため、太陽光パネルの発電量を表示するための展示物を設置している。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

- ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統を定めた。
- ▼ 館長1名、課長2名、係長6名を配置した。
- ▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜嘱託職員・契約職員・パート職員等の採用を行った。
- ▼ 定期的に職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。

▼ 人材育成のため、動画を用いたeラーニングでの研修を実施するとともに、オンライン含めた外部研修等に参加した。

▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。

▼ 職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するために必要な事項を「財団安全衛生管理規則」や「衛生委員会設置要綱」で定め、衛生管理者を設置し衛生委員会を設けた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保に繋げることができた。

新型コロナウイルスによる制限が徐々に緩和され、オンラインに加え対面での研修会等にも積極的に参加することで、職員の専門性の向上、技術の向上を図ることができた。

各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。

管理運営組織が確立されていることを評価する。市民サービス向上のため、柔軟に課題解決に取り組める組織体制づくりを進めること。

研修会等については、対面の他、オンラインを活用するなど、職員の専門性、技術の向上に努めたことを評価する。専門性が求められる分野であることから、継続した人材育成を期待する。

就業規則や36協定等については、研修や会議等の機会を利用し、職員への周知に努めていただいた。

	<p>▼ グループウェアを積極的に活用した業務体制づくりを進めるなどして、各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。</p> <p>▼ 日常から事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。</p> <p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <p>▼ 電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。また、施設維持のための保守についても、専門職員による業務遂行のため再委託した。</p>	<p>これまでの運営経験で培われたノウハウを活かすとともに、IT技術を活用することで管理水準の維持向上につなげた。</p> <p>施設の維持管理および展示物の保守管理等を同一業者に委託することで、経費の縮減および業務の効率化を図ることができた。</p>	<p>経費縮減及び効率化が図られており、評価する。引き続き指定管理者としての更なる工夫に期待する。</p>
--	---	--	---

## ▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 6月21日	令和3年度の来館者数と事業の報告について ・科学館の運営上の課題について ・その他、質疑・意見交換
第2回 11月24日	令和4年度の来館者数と事業の報告について ・科学館の運営上の課題について ・その他、質疑・意見交換
第3回 2月22日	令和4年度の来館者数と事業の報告について ・科学館の運営上の課題について ・その他、質疑・意見交換
<協議会メンバー> 北海道情報大学 副学長、札幌市立しらかば台小学校校長、札幌市立栄南中学校校長、一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長、札幌市青少年科学館館長	

学校関係者や学識経験者から当館事業の運営についてアドバイスをいただき、以後の事業運営に活用することができた。

科学館の運営管理における有意義な意見交換が行われる場となるよう、引き続き、協議手法について検討すること。また、運営協議会の意見を踏まえて、科学館の事業がより良いものとなるよう努めること。

## ▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士及び公認税理士による外部監査を導入し、適正に対応している。

資金管理、現金等の取り扱いについては、取扱要領等に則り、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。

適正な資金管理が行われていることを評価する。今後も事故を未然に防ぐため、職員の意識啓発に努めていただきたい。

▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。

▼ 現金等の取扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策について」に則り、事故・不祥事を未然に防ぐ取組みを行っている。

規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。

▼ 現金等の取扱いについては「小口現金取扱要領」に則り、適正に行っている。

	<p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知している。</p> <p>▼ 全ての職員が常に的確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けている。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼ 職員の待遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、接触機会を低減するために、webアンケートの方式を採用した。寄せられた利用者の声は事業運営等に活かしている。</p>	<p>要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。</p> <p>科学館全体に関する満足度については、職員対応、館内の清潔さ、案内掲示やサイン、科学館全体への満足度の4項目でそれぞれ満足度を聞いたところ、全ての項目で8割以上となり高い満足度であることがわかった。</p>	<p>苦情等については、適切な処理が行われているが、利用者からの声を真摯に受け止め、さらなるサービスの向上に繋げることを期待する。また、利用者に対し、要望・苦情に対応する部署の周知を図ること。</p> <p>Webアンケートについては、回答者が少なかったため、回答数が増えるような工夫を期待する。また、総合的な設問だけではなく、来年度は展示物が大きく入れ替わることから、個別の展示や企画・エリアについて、より実践的な設問を導入することについても検討すること。</p>				
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <p>▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。</p> <p>▼ 「財団就業規則」や「財団給与規則」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めている。</p>	<p>関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。</p> <p>社労士に委託し、相談窓口の設置や労務環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善に繋がった。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努めた。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%; background-color: yellow;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table> <p>職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するよう努めること。</p> <p>就業規則、36協定等を遵守するとともに、雇用環境の向上に繋がる取組についても積極的に進めていきたい。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

(3) 施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D
			<p data-bbox="1241 241 1449 448">適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。</p> <p data-bbox="1241 985 1449 1500">職員が自作した展示物を代替で展示する等、自らの工夫による取組を評価する。施設・展示で修繕等がなされていないものが散見されるので、計画的に取り組むことを期待する。事務室移転後も、科学館に駐在する業者と連携を取り、保守体制を整えたことを評価する。</p>
	<p data-bbox="359 241 1002 403">▼ 災害時の対応について、財団で定めた消防計画、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成等に即して、適切に役割分担を行い、利用者の安全確保に努めている。 また、緊急連絡網を作成し、有事に備えた連絡体制を整備している。</p> <p data-bbox="359 425 1002 560">・施設管理者賠償責任保険 対人賠償 1事故1,000,000,000円(免責なし) 1人 100,000,000円(免責なし) 対物賠償 1事故 50,000,000円(免責なし)</p> <p data-bbox="359 582 1002 739">・レジャー・サービス施設費用保険 死亡1名あたり500,000円 後遺障害1名あたり500,000円 入院1名あたり ~100,000円 通院1名あたり ~50,000円</p> <p data-bbox="359 761 1002 851">・レクリエーション傷害保険 死亡・後遺障害1名あたり1,000,000円 入院日額1,500円 通院日額1,000円</p> <p data-bbox="359 896 1002 963">▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p data-bbox="359 985 1002 1187">▼ 清掃、警備、保守点検について仕様書に基づき、適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物(スーパードリームライド、人工降雪装置等)保守については、第三者委託により実施している。</p> <p data-bbox="359 1657 1002 1724">▼ 躯体の老朽化に伴う修繕については、札幌市教育委員会と調整を図り、対応した。</p> <p data-bbox="359 1747 1002 1859">▼ 機器設備等の故障箇所等については、可能なものは速やかに修繕を行った。大規模な設備の修繕に関しては、札幌市教育委員会と調整を図った。</p>	<p data-bbox="1002 241 1241 448">各種災害に関する避難マニュアル等を作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。</p> <p data-bbox="1002 985 1241 1612">第三者委託業務については、適正な管理監督を行い、業務完了時には完了報告書を受け、業務内容について監修した。確認後は随時報告書を提出し委託業務の適正な管理等を行った。事務室移転後は、科学館に駐在する設備業者と連携を取り、開館時同様に日々報告書を受けるなどし、科学館職員不在時における保守体制についても万全となるよう努めた。</p> <p data-bbox="1002 1657 1241 1814">施設・展示物の維持管理について、財団で修繕可能なものは速やかに修繕を行った。</p>	

	<p>▼ 老朽化や故障による休止中の展示物が増えているため、札幌市教育委員会と調整を図りながら修繕を進めた。令和4～5年度の展示物リニューアルも見据えながら、部品が入手できず修繕不能な展示物については、職員が自作した展示物などを代替して展示するなどした。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼ 消防計画に則り、防災訓練(火災を想定した避難誘導・通報訓練)を実施し、避難誘導體制の確認に努めた。</p>	<p>修繕不能な展示物が増えていく中でも、職員が工夫し自作した展示物を展示することができた。</p> <p>開館時における火災発生を想定し、可能な限り現実に即した体制で防災訓練を実施した。常勤の職員のほか、各委託業者やパート職員を含めた館に係る全員が参加し、実施後は全員で振り返りを行い改善点や正しい知識を共有した。スタッフ全員の防災意識を高めるとともに、対応力の向上を果たすことができた。</p>	<p>適切に取り組まれており評価する。今後も実際の火災発生を想定する防災訓練を続けるなどし、非常事態時に職員全員が冷静な状況判断ができるようになることを期待する。</p>								
(4)事業の計画・実施業務	<p>▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示</p> <p>▼ 施設内にある常設展示物を有効に活用し、実演等を交え、子どもから大人までの幅広い層の来館者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるよう努めている。コロナ禍においては、日本博物館協会が発出した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」等に基づいて各展示物のリスク診断を行い、リスクが高い展示物は休止するなど、常に安全性を意識しながら展示物の運用を行った。</p>	<p>体験型展示物が数多く設置されている館であるため、新型コロナウイルスへの各種対策を講じつつ、来館者の安全確保を第一に考えた。その結果、コロナ禍においても、展示物を通して広く市民に科学や科学技術の知識を提供し、科学への興味・関心を喚起できた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th style="background-color: yellow;">A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">常設展示だけでなく、実演展示による解説員と来館者とのコミュニケーションを通し、科学に対する興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	常設展示だけでなく、実演展示による解説員と来館者とのコミュニケーションを通し、科学に対する興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。			
A	B	C	D								
常設展示だけでなく、実演展示による解説員と来館者とのコミュニケーションを通し、科学に対する興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。											

▼ 小中学校の長期休暇等に、常設展示だけでは体験できない内容の展示や実演を交えた特別展等を開催した。

・夏休み「あつまれ！ロボット学校大開放」  
27日間開催(来館者39,510名)  
ロボットをテーマに、各コーナーを学校の授業に見立て、1時間目「理科」などと表現し、センサー・駆動・制御の3要素について、ロボットアームやネジ拾いロボットなどの動態展示や体験などを通じて学んだ。

・冬休み「出張！札幌市青少年科学館」  
2日間開催(来館者3,253名)  
冬休みの期間に、札幌駅前地下歩行空間(チ・カ・ホ)にて、体験型展示中心の特別展を開催した。今回は、光をテーマに、光のピンボールなどの体験展示や手作り  
万華鏡工作などを実施した。

・環境科学展  
21日間開催(来館者33,519名)  
企業や団体と連携し、環境問題と対策技術の現状等について活動紹介を行うパネル展を実施した。

▼ 最先端の研究や科学技術を学ぶ講演会をオンラインにて実施した。

・先端科学技術講座  
山崎直子宇宙飛行士オンライン講演会「宇宙で活躍するロボットたち」  
(参加者98名)

常設展示では網羅できない特定のテーマや分野に関して、科学の面白さや楽しさ、私たちの身近な暮らしとの係わりについて伝えることができた。

先端科学技術と科学の面白さや楽しさと、私たちの身近な暮らしを関連して伝えることができた。当館名誉館長である山崎元宇宙飛行士の講演会を実施することで、コロナ禍にあっても当館のPRや利用者の開拓につなげることができた。

特に休館期間中に実施した冬の特別展については、人通りが多く注目を集めやすい札幌駅地下歩行空間で実施することにより、これまで科学館に接点のなかった市民に対しても、科学に触れ合う機会を多く提供したことを評価する。今後も市民の科学や科学技術への興味・関心を喚起できるような企画を期待する。

山崎名誉館長のイベントは幼児から高齢者まで幅広い層から人気がある内容のため、今後も講演などを通して本市科学館のPRに協力いただき、これまで科学に興味・関心がなかった方にも科学館に来館してもらえるようなイベントの実施に期待する。

▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催

▼ 色々な現象の観察や体験を通して、子どもから大人までの幅広い層の参加者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるような実験・実習を実施した。

・工作教室

科学原理の理解を深める機会を提供するため、小・中学生を対象に、簡単な工作教室を実施した。

(開館中)通常(日祝) 34回 参加者185名

春休み 6回 参加者36名

GW 12回 参加者68名

夏休み 24回 参加者183名

(休館中)

通常(日祝)48回230名

冬休み 12回 参加者65名

● 各種実演

・サイエンスショー

来館者とのコミュニケーションを図りながら科学への興味・関心を深めてもらえるよう、不思議な現象の紹介や楽しい実験などの実演ショーを行った。休館中は、ちえりあ内や市内幼稚園等へ出向き、科学への興味・関心を深

めてもらえるよう、不思議な現象の紹介や楽しい実験などの実演ショーを行った。

(開館中)

347回 参加者7,851名

「うずうずしちゃう渦」ほか

(休館中)

101回参加者3,568名

「見える見える光の世界」ほか

・テレビスタジオ

クロマキーなどテレビ番組で使われている特殊効果を紹介するとともに実際に撮影体験してもらう参加型の実演を行った。

2回/日 (3回/土日祝・特別展期間中)

・人工降雪装置

自然環境と同様の条件で雪を降らせ、雪や降雪に関する解説を行った。

2回/日

・ちよびっとサイエンス

展示室の入口で、簡単な科学体験や実演を行った。

6回

定員を減らし、接触を減らすよう工夫をしながら、共通化した材料を基本として題材開発をすすめることで、材料準備等の効率性を高めるとともに、安全性にも配慮した工作会を実施することができた。

サイエンスショーな

どの実演をとおして、科学や科学技術の知識を提供し、市民の興味関心を喚起することができた。

コロナ禍においては感染リスクに配慮したプログラムなど工夫を行った。

新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底したうえで、子どもから大人まで科学を楽しめる工作教室や実験室を実施していることを評価する。

科学館を使えない中、幼稚園等に出向き、科学の普及活動を行ったことも高く評価できる。今後も、適時適切な感染対策を行ったうえで、楽しめる企画の実施を期待する。

実演展示は、本市の科学館の特徴的な事業であるとともに、来館者の興味・関心を高めることにつながる展示である。市民が楽しめるよう今後も創意工夫することを期待する。

・日曜実験室  
小中学生を対象に、身近な題材や科学現象をテーマにした実験教室を実施した。  
(開館中)  
27回 参加者211名  
「G-SHACK! ?ちょっと不思議なはたらき」 ほか  
(休館中)  
26回 参加者130名  
「いろいろ金属?おもしろ金属?」 ほか

身近な題材を取り上げた実験を行い、理科の面白さを伝えることができた。コロナ禍においては、定員を減らしたり、参加者同士あるいは参加者と講師の接触機会が無くても行うことが可能な実験を取り入れるなどの工夫をこらした。

#### ▽ プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発

▼ 一般投影・特別投影  
観覧者の年齢層にあわせた内容や話し方を工夫するなど、星座や天文知識を分かりやすく紹介した。休館中はちえりあや市内公共施設などを会場に移動式プラネタリウムを用いた投影を行った。  
一般投影(開館中) 467回 観覧者42,159名  
(休館中) 16回 観覧者278名  
特別投影 4回 観覧者426名

プラネタリウムを活用し、天文分野の基礎的な知識から最新の話題までを紹介し、来館者の天文に対する興味関心を喚起することができた。休館中についても移動式プラネタリウムを用いて、広く市民に向けて投影を行うことができた。

観覧者が、天文について理解しやすいように工夫したことを評価する。今後も幅広い年齢層の利用者に向けた番組の充実などにより、一層天文知識が市民に普及されることを期待する。また、本館のプラネタリウムが使えないことを移動式プラネタリウムを用いるなどし、補ったことも評価できる。

▼ 学習投影  
小中学校を対象に、理科授業の一環として、学習指導要領及び各学校の教育課程を踏まえ、天体の動きなどを学習するプラネタリウム投影を行った。休館中は移動式プラネタリウムを用いたプラネタリウム投影に加え、天文シミュレーターやスライドを活用した天文出前授業を行った。  
(開館中)133回 参加者12,846名  
(休館中)218回 参加者3,641名  
天文出前授業 12回 参加者816名

学校では表現しにくい天体の動き等について、ドーム空間で再現することで児童・生徒の理解度を高めることができた。開館期間中に来館できなかった学校に対しては、移動式プラネタリウム等を活用するなどし、結果的に学習投影を希望したほぼすべての学校に対して、学習支援を行うことができた。

各学校のスカイライン(360度映像)を投影しながら、子どもたちにとってわかりやすく、効果的な学習となっていることを評価する。また、新型コロナウイルスの影響で来館できない学校のため、学校への職員の派遣またはオンラインでの取組を行ったことを評価する。子どもたちの天体への関心が高まる工夫を今後も期待する。

## ▼ 字幕付きプラネタリウム

耳の不自由な人もプラネタリウムを楽しめるように、字幕付きの投影を行った。

2回 観覧者229名

## ▼ キッズプラネタリウム

未就学児とその保護者を対象に、童謡やクイズを取り入れた親子で参加できる特別なプラネタリウムの投影を行った。休館中はちえりあホール内で移動プラネタリウムを用いて実施した。

(開館中)6回 観覧者860名

(休館中)2回 観覧者349名

## ▼ プラネタリウム祭り

より多くの市民から興味を持ってもらえるように、通常の投影とは異なった内容を取り入れたプラネタリウム投影を実施した。

9日間 観覧者5,757名

▼ さっぽろ星まつり2022～inサッポロさとらんど～  
サッポロさとらんどを会場に、市民の天文への関心を高めるため、宇宙に関するゲームや天体観望会を実施した。夜間観望会は事前予約制とし、感染対策をしながら運営した。

2日間 参加者約3,300名

## ▼ 移動天文台

学校や町内会、青少年育成委員会などからの要請により、移動天文車と職員及び天文指導員を派遣し、望遠鏡を用いた天体観望や星空解説を行う観望会を実施した。

天体観望実施 22回 (中止12回)

字幕を付けることで耳の不自由な利用者にも健常者にもプラネタリウムを楽しんでもらうことができた。

また、健常者の方々にも、字幕があることで星の名前が覚えやすいなど好評であった。

幼児向けの投影素材を充実させ、対象年齢に合わせた投影ができた。

幅広いジャンルと組み合わせた内容のイベントを実施することで、プラネタリウムや星々の魅力を広く市民に伝えることができた。

例年冬に実施していたものを、開館中の7月に前倒して実施したことで、休館前の来館需要増に対応できた。

2年ぶりの開催となったが、感染対策を講じながらたくさんの方のイベントを実施することができ、大勢の方に天文普及を行うとともに楽しんでいただくことができた。

広く市民に天体観望の機会を提供し、天文知識を普及することができた。

幅広い市民に楽しんでもらえるような工夫を凝らした運営を行っていることを評価する。今後も、市民の利用増が見込めるような投影を期待する。

アウトリーチ活動は、新たな利用者の獲得につながる。とともに、科学館に来館できない子どもたちにとっての貴重な学習機会の提供となることから、更なる事業の拡大を期待する。

## ▼ オンライン天体観望会

様々な天文現象のインターネット配信をYouTube上で行い、天体に対する興味・関心を喚起した。科学館休館後、ちえりあのテラスに望遠鏡を設置し、天文現象にあわせて年度内で3回実施する予定だったが、うち2回は天候に恵まれず中止となった。

1回配信 再生数13,656回(2023年6月末時点)

## ▼ 札幌市天文台

天文に関する興味・関心を高めるため、札幌の中心部にある中島公園内の札幌市天文台を公開し、日中は太陽を、夜は季節の星座を中心に観望会を実施した。

613回(午前、午後、夜間すべて含む) 観覧者  
12,195名

## ▼ 宇宙セミナー

宇宙に対する市民の興味・関心を高めるため、研究者を招いて講演会を実施した。

火星が地球に接近する時期であったことから、火星の衛星からサンプルを地球に持ち帰る「MMX 計画」に携わる研究者を講師とした。

講師:北海道大学大学院理学研究院 教授 倉本 圭氏

1回67名

オンラインにて貴重な天文現象を広く紹介することができた。配信ページへのコメントも好評だった。

機材の拡充とノウハウの蓄積により、科学館以外の場所からでもオンライン観望会を実施することができた。今後の事業の幅の広がりに繋がると考える。

太陽や季節の星座の星を中心に、広く市民に天体観測の機会を提供できた。秋から冬にかけて、新型コロナウイルスの影響が落ち着いてくると観光客を中心に来台者が一気に増え、前年度と比較して2倍以上の数字となった。

他では聞けないような貴重なお話について、一般の方々でも理解できるよう、わかりやすく伝えていただくことができ、大変好評だった。質疑応答のコーナーではたくさんの小学生たちから鋭い質問が相次ぎ、会場内の大人たちが一様に感心するなど、幅広い年代層の方々に貴重な機会を提供できた。

オンラインの企画・実施をおこない、多くの方が参加できるようにしたことを高く評価する。今後は映像を流すだけではなく、解説などのガイドをいれるなど工夫し、より興味関心を弾けるような取組を期待する。

昼間、夜間公開を通して、多くの市民等に天文に関する知識の普及啓発を行っており、大変評価する。

日中・夜間を通して市民への天体観測の機会を提供していることを評価する。

今後も同様の取り組みを継続できる体制を整備することを目指す。

幅広い市民に提供できたこと、来館者の交流の場になったことを大変評価する。

引き続き、先端的な内容の研究・開発を市民に普及できるような講演に期待する。

## ▼ 大人のための天文教室

基本的なカメラの仕組みや設定方法を紹介し、天体写真を楽しむきっかけを提供する「はじめての天体写真講座」を実施した。さらに、プラネタリウムでの実習を通じ実践的に学習を進めた。

また、休館中は、これから星空を楽しみたいという初心者を対象とした、星の基礎知識や星座早見盤の使い方を学ぶ基礎講座「やさしく学ぶ星空教室」、星や天文について、少し詳しくなりたい方向けの中級講座「詳しく学ぶ天文講座」をそれぞれ実施した。

(開館中)はじめての天体写真講座 1講座(全2回)15名

(休館中)やさしく学ぶ星空教室 1講座(全3回)30名

(休館中)詳しく学ぶ天文講座 1講座(全4回)22名

## ▼ 親子天文教室

楽しみながら基礎的な天文知識を身につけ、天体への興味・関心を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に、天文工作と天体観測を組合わせた天文教室を実施した。

6回 受講者102組247名

## ▼ 天文指導員の養成

天文に興味を持っている学生や一般市民に定期的に研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。

天文ボランティア養成講座 1回19名

新規天文指導員登録者数 8名

天文指導員登録者総数 44名

## ▼ 天文情報リーフレット「星空散歩」の発行

季節ごとの天体の様子や天文トピックスを掲載し、館内及び市内公共施設等で配架した。

(開館中) 3回(4月、6月、8月) 計17,000部

(休館中) 2回(秋号、冬号) 計4,000部

## ▼ 他団体との連携事業

他団体と連携、協力し、宇宙天文分野に関する興味関心を喚起するため、様々な事業を実施した。

宇宙の日 作文・絵画コンテスト(主催:JAXA、YAC) 応募作品15点

夏休み天体観望会(共催:(公財)さっぽろ青少年女性活動協会) 悪天候のため中止

はなふる夏の天体観測会(主催:第39回全国都市緑化北海道フェア実行委員会) 2日間 参加者100名

冬の自然体験フェス(主催:札幌市林間学校運営会) 参加者213名

初心者から中級者へ向けて、レベルに沿った天文教室を行い、市民への天文知識の普及啓発を図った。休館中は、ちえりあを会場とすることで、今まで比較的参加者が少なかった西区手稲区など厚別区から遠方にお住まいの方々が多く受講されるなど、新しい層へアプローチすることができた。

親子で天文現象等について学べる機会を提供し、親子の触れ合いと天文分野の魅力を伝えることができた。

天文ボランティア養成講座受講生の中から、8名の方を新たな天文指導員として迎えることができた。

月1回程度の定例研修を通じて、天体観測の基礎的な知識を身に付けるとともに、移動天文台の実施等を通じて星について伝える技術について研修機会を提供できた。

季節ごとの天体情報に加え、月食や流星群など旬の天文現象を市民に提供し、広く情報の発信に努めることができた。

様々な団体と連携することで、色々な地域や参加者層に対し、幅広い事業を展開することができた。

生涯学習関連施設として、大人も学習できる場として寄与していることを評価する。引き続き幅広い世代への学習機会の提供となる取組に期待する。

専門的な人材確保のため、継続的な取組を期待する。今後も研修機会を通して、職員・ボランティア間の連携を強化し、より市民にとって効果的な事業となることを期待する。

他団体と協力し、宇宙天文分野に関する興味関心を喚起し、参加者を多く集めたことを評価する。

▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力

▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。

- ・令和4年度北海道青少年科学館連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・令和4年度道央地区博物館等連絡協議会総会(道央地区博物館等連絡協議会)
- ・第31回(令和4年度)指定都市科学館連絡協議会(指定都市科学館連絡協議会)
- ・令和4年度全国博物館館長会議および全国科学博物館協議会理事会・総会(全国科学博物館協議会)
- ・令和4年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議及び第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・全国プラネタリウム大会(日本プラネタリウム協議会)
- ・JPA北海道プラネタリウムネットワーク研修会in紋別(日本プラネタリウム協議会)
- ・全国プラネタリウム研修会 2022・伊丹
- ・第70回全国博物館大会(日本博物館協会)
- ・令和4年度全国科学館連携協議会東北ブロック会議
- ・2022年度全国科学館連携協議会関東ブロック会議
- ・第13回全国理工系学芸員展示研究大会
- ・第57回北海道青少年科学館連絡協議会職員研修
- ・第60回北海道中学校理科研究会 札幌大会
- ・令和4年度 科学館・博物館若手職員向けグローバル研修交流会

▼ 夏・冬休みで特別展を実施する中で、各種関係機関に展示物の貸与等で協力をいただいた。

- ・(株)GROOVE X
- ・札幌市立大学
- ・北海道科学大学
- ・北海道工業高等学校校長会
- ・北海道情報大学
- ・北海道ハイテクノロジー専門学校
- ・室蘭工業大学

▼ 各種関係機関と連携し、以下の取組みを行なった。

関係機関が主催する研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員の資質向上につなげることができた。

大学や企業、業界団体の協力を仰いだことで、それぞれの分野の専門性を企画に盛り込むことができ、その結果、魅力ある特別展を実施することができた。

職員の資質向上につながる研修や講座等に参加し、情報の蓄積を続けており、評価する。これらの研修や講座で得た知識を活用し、今後も科学及び科学技術の知識の普及啓発に向けた取組に期待する。

● 社会教育施設・団体等と連携し、以下の取組みを行なった。

- ・かるちやるnetへの参加(事務局:北海道博物館)
- ・CISEサイエンスフェスティバルへの参加(CISEネットワーク)
- ・厚別区PTA連合会ふれあい事業(厚別区PTA連合会)
- ・札幌国際芸術祭web動画への出演(同実行委員会)
- ・ふしぎ・おどろきサイエンスキッズ(札幌市子ども会育成連合会)
- ・ジオ・フェスティバル in Sapporo2022への参加(同実行委員会)
- ・消費生活講座への講師受託((公社)札幌消費者協会)
- ・「白い恋人パーク」内でのサイエンスショー実施(石屋商事株)
- ・科学の祭典in北海道への参加(同事務局)
- ・2022サイエンスパークへの参加(同事務局)

● 学校教育機関等と連携し、以下の取組みを行なった。

- ・実験実習セットの貸し出し  
(開館中)13団体13セット  
(休館中)7団体8セット
- ・札幌市教育センターと連携した「教員研修」の実施  
(開館中)2回 参加者18名  
(休館中)2回 参加者15名
- ・職場体験の受け入れ 2校 参加者2名

▼ エア科学館

休館中、Twitterを用いて科学トピックスや事業紹介等を実施した  
23回

▽ その他科学等の設置目的を達成するために必要な業務

- ▼ 科学や宇宙・天文に関する疑問や質問に可能な限り回答し、市民の自主学習を支援した。

市内外の社会教育施設や大学、高等学校と連携し、交流を深め、ネットワークづくりを図ることができた。

各種関係機関や他の社会教育施設、学校教育機関、地域と連携した取組を評価する。  
このようなネットワークを活かした新たな事業展開に期待する。

科学実験動画などを配信し、休館中であっても、科学に関する知識の普及啓発に努めることができた。  
職員の中でWebを活用した情報発信のノウハウが蓄積されてきており、前年度と比較して、より多彩で内容の濃い動画コンテンツなどを配信することができ、多くの方に視聴いただくことができた。

解説や質疑を丁寧に行うことにより、市民の自主学習を図ることができた。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等	A B C D																			
		R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績																	
	<table border="1"> <tr> <th></th> <th>R3年度実績</th> <th>R4年度計画</th> <th>R4年度実績</th> </tr> <tr> <td>展示室</td> <td>108,690</td> <td>91,000</td> <td>106,227</td> </tr> <tr> <td>プラネタリウム</td> <td>57,564</td> <td>32,550</td> <td>55,005</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>166,254</td> <td>123,550</td> <td>161,232</td> </tr> </table>		R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績	展示室	108,690	91,000	106,227	プラネタリウム	57,564	32,550	55,005	総計	166,254	123,550	161,232				
	R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績																		
展示室	108,690	91,000	106,227																		
プラネタリウム	57,564	32,550	55,005																		
総計	166,254	123,550	161,232																		
	<table border="1"> <tr> <th>事業参加者数</th> <th>15,154</th> <th>—</th> <th>32,703</th> </tr> </table>	事業参加者数	15,154	—	32,703																
事業参加者数	15,154	—	32,703																		
	▽ 不承認 0 件、取消し 0 件、減免 13,306 件 還付 0 件																				
	▽ 利用促進の取組																				
	<p>▼ リピーターの拡大を図るため、展示室年間パスポートの販売を継続した。一昨年度に導入した、特典付きのプラネタリウムスタンプ制度は、スタンプ上限の12個全て揃えた方が、48名にも上るなど、着実に定着してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室年間パスポート販売 115枚</li> <li>・プラネタリウムスタンプ12個達成者 48名 / 3個達成者 415名(12個達成の48名を含む)</li> <li>・Sciキッズ会員 24名(継続24名)</li> </ul> <p>▼ 休館前最後の夏休み期間には、「グッドラック科学館」と称して様々なイベントを実施し、多数の来館者で館内が賑わった。例年冬に行う人気企画「プラネタリウム祭り」は、7月に前倒して実施した。</p> <p>▼ 休館中は、生涯学習センターに仮事務所を置き、講座や実験、工作等については同センターの貸室で実施した他、アウトリーチ事業や SNS 上での実験動画等の配信を行い、科学に関する知識の普及啓発に努めた。</p>	<p>休館の影響で利用者数の減少を見込んでいたが、4月から8月の約5か月のみの開館に関わらず、令和3年度と同等の来館者を迎えることができた。事業参加者数には、休館中の事業参加者も含んでおり、こちらも計画を上回った。</p> <p>展示室年間パスポートやプラネタリウムスタンプ制度は、着実に利用者間で定着してきており、リピーターの獲得につながっていると考える。</p> <p>例年冬に行う人気事業を前倒して実施し、休館前の駆け込み需要に応え、利用者の満足度を高めることができた。</p> <p>休館中でも学習機会を減らさぬよう、アウトリーチ事業や各種団体との連携を積極的に行い、新たな利用者を増やすチャンスにつながっている。</p>	<p>リニューアルオープン後は、これまで以上に市民に科学を楽しく学ぶ場を提供できるような運用を目指すこと。</p> <p>利用者が減じないよう閑散期に対する取組や、新規利用者の確保に向けた取組を実施しており評価する。</p>																		
(6)付随業務	▽ 広報業務	A B C D																			
	<p>▼ ホームページに「最新の科学トピックス」や「裏側レポート」、「イベント情報」を掲載するなど、科学館の魅力の発信に努めた。また、ウェブアクセシビリティの向上のため、JIS X 8341-3:2016「附属書 JB(参考)試験方法」に基づき検査を行い、一部を除いてレベルA準拠であることを確認した。レベルAを満たしていない項目については、大掛かりな修正作業が必要であったため、令和5年度に予定しているホームページリニューアルの機会に対応を図る予定である。</p>	<p>ホームページのコンテンツ、読みやすさともに工夫し、情報を発信した。休館中は、SNS(Twitter)での情報発信にも力を入れ、更新情報をホームページに掲載することで、より多くの方に科学に関する興味関心を促すことができた。</p>	<p>今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。休館中もホームページ等を更新し、科学館に関する情報を発信し続けたことを評価する。</p>																		

	<p>▼ 広報媒体を使い分け、大人や子どもなどに対して効率的かつ効果的に情報提供を行った。また、マスメディアに対しても積極的に投げかけた。</p> <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし。</p>	<p>休館の際にはテレビ番組内で最後の1日の特集していただくなど、科学館のリニューアルについて多くの方に周知することができた。</p>												
2 自主事業その他														
<p>▽ 自主事業</p> <p>▼ 自動販売機事業 売上高 2,060,800円</p> <p>▼ 売店事業 売上高 4,142,585円</p> <p>▼ その他 収入額 4,818円</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に努めている。また、業務の再委託について、入札の指名にあたり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定した。</p> <p>▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用した。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1246 555 1294 589">A</th> <th data-bbox="1294 555 1342 589">B</th> <th data-bbox="1342 555 1390 589">C</th> <th data-bbox="1390 555 1442 589">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4" data-bbox="1241 633 1445 853"> <p>売店事業に関しては科学館の「ミュージアムショップ」として市民の期待度は大きい。魅力的な商品開発に期待する。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="4" data-bbox="1241 943 1445 1059"> <p>引き続き、市内企業、社会福祉団体の活用を期待する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>売店事業に関しては科学館の「ミュージアムショップ」として市民の期待度は大きい。魅力的な商品開発に期待する。</p>				<p>引き続き、市内企業、社会福祉団体の活用を期待する。</p>			
A	B	C	D											
<p>売店事業に関しては科学館の「ミュージアムショップ」として市民の期待度は大きい。魅力的な商品開発に期待する。</p>														
<p>引き続き、市内企業、社会福祉団体の活用を期待する。</p>														

<p>▼ 事業運営において、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。例年実施してきたプラネタリウム用の補聴器の貸し出しに関しては新型コロナウイルス感染防止のため、一年間を通して休止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子の貸し出し</li> <li>・字幕付きプラネタリウムの実施</li> </ul>	<p>ピクトグラムを取り入れた館内案内表記や、券売窓口での筆談対応、聴覚にハンディがある方へ向けた字幕付き投影の実施など、館内利用時や事業実施時に、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組むことができている。</p>	<p>ユニバーサルデザインの対応含め、多様な市民が利用しやすい場となるよう工夫がされており、評価する。</p>
---	--	---

## 3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果		<p>アンケート結果は各項目について「とてもよかった・よかった」が多く、利用者にとって満足度が高かったことがうかがえる。</p> <p>寄せられたご意見に関しても、順次対策を検討し、対応を図ることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>利用者の満足度が高い運営を行っていることを評価する。</p> <p>リニューアル開館後も、満足度が下がらないよう、展示物の運用やイベントの企画をお願いしたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>利用者の満足度が高い運営を行っていることを評価する。</p> <p>リニューアル開館後も、満足度が下がらないよう、展示物の運用やイベントの企画をお願いしたい。</p>			
A	B			C	D						
<p>利用者の満足度が高い運営を行っていることを評価する。</p> <p>リニューアル開館後も、満足度が下がらないよう、展示物の運用やイベントの企画をお願いしたい。</p>											
実施方法	スマートフォンなどを利用したWebアンケート										
結果概要	<p>科学館全体の満足度 とてもよかった(66.9%) / よかった(24.8%) / ふつう(4.5%) / よくなかった(2.3%) / とてもよくなかった(1.5%)</p> <p>特別展等の内容の満足度 とてもよかった(55.9%) / よかった(24.5%) / ふつう(16.6%) / よくなかった(2%) / とてもよくなかった(1%)</p> <p>職員の対応 とてもよかった(65.4%) / よかった(27%) / ふつう(6%) / よくなかった(0.8%) / とてもよくなかった(0.8%)</p>										
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休止中の展示物が多すぎる</li> <li>・プラネタリウムが学校貸切で見られなかったなど</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナを理由に休止していた展示物は、段階的に再開した。</li> <li>・空き状況を自宅から確認したり、観覧券を事前に購入する仕組みの導入を検討したい</li> </ul>										

## 4 収支状況

▽ 収支 (千円)				A	B	C	D
項目	R4年度計画	R4年度決算	差(決算-計画)				
収入	401,493	412,998	11,505				
指定管理業務収入	398,833	406,790	7,957				
指定管理費	367,447	367,447	0				
利用料金	29,682	34,368	4,686				
その他	1,704	4,975	3,271				
自主事業収入	2,660	6,208	3,548				
支出	396,181	370,364	▲ 25,817				
指定管理業務支出	391,198	364,164	▲ 27,034				
自主事業支出	4,983	6,200	1,217				
収入-支出	5,312	42,634	37,322				
利益還元	0	0	0				
法人税等	35	173	138				
純利益	5,277	42,461	37,184				
▽ 説明							
<p>▼展示物大規模 リニューアル及び施設の長寿命化等の改修工事に伴い、令和4年8月22日から令和6年3月末まで休館の予定である。利用料金収入は、4月から8月のみの数字だが、コロナ禍で臨時休館等があった前年度1年分と同等である。休館前の駆け込み需要や新型コロナの制限緩和の影響と考える。</p> <p>▼収入項目のその他の部分は、休館中も継続している工作教室参加費などの事業収入と、休館中科学館に滞在している業者による光熱水費の補填を含んでいる。</p> <p>▼人件費や委託費などの支出を抑えた結果、約4,200万円の黒字となった。</p>				<p>休館の影響で収入減を見込んでいたが、休館前の駆け込み需要や新型コロナの制限緩和の影響で、計画と比べ増収となった。</p> <p>休館にともなう利用料金収入減があった中でも、自主事業による収入を増やすなどの工夫を評価する。しばらく休館は続くが、収入と支出の均衡をとるよう努めていただきたい。</p>			

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持 ▼ 当団体の財務状況等は良好である。		適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応している。		適	不適

## Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
<p>展示物大規模リニューアル及び施設の長寿命化等の改修工事に伴い、令和4年8月22日から令和6年3月末まで休館の予定である。休館前最後の夏休み期間には、「グッドラック科学館」と称して様々なイベントを実施し、多数の来館者で館内が賑わった。</p> <p>休館中は、生涯学習センターに仮事務所を置き、講座や実験、工作等については同センターの貸室で実施している。同センターが西区にあるため、参加者は西区手稲区の方の割合が多く、休館を機に新たな客層を取り込んでいる。また、SNS上での実験や月食等の配信を行い、科学に関する知識の普及啓発に努めているが、これはコロナ禍での臨時休館の際に試験的に行っていた動画等での学習支援のノウハウを、活用できているものとする。</p> <p>直接展示物に触れる機会も大切しており、様々な動態展示や体験を通して「センサー」や「人工知能」について学ぶ夏の特別展「あつまれ！ロボット学校大開放」を開催した。休館中冬休みには、札幌駅前地下歩行空間(チ・カ・ホ)において、冬の特別展「出張！札幌市青少年科学館」を実施し、後日イベントを見たという別の施設らイベント出展の依頼をいただくなど、新たな事業のきっかけにもなっている。</p> <p>休館中でも学習機会を減らさぬよう、アウトリーチ事業を積極的に行っている。小学校向けには、出前授業や移動プラネタリウムを用いた学習投影を、幼稚園等では「出前サイエンスショー」を行った。一般向けには、「移動プラネタリウム&amp;サイエンスショー」を市内各地で実施した他、各種団体との連携やイベント協力も行い、新たな利用者を増やすチャンスにつなげている。</p>	<p>令和5年度も引き続き休館が続くことになるが、引き続き、科学館以外の会場を確保し、また各学校や幼稚園等から出向いていき、科学館の設置目的を達成するための事業の水準が例年を下回らないよう注力していく。</p> <p>広報に関しては、リニューアルに向け機運を高めるため、リニューアルレポートを科学館ホームページで発信し、山崎直子宇宙飛行士の特別講演会等の、記念イベントを実施していく予定である。</p> <p>リニューアル後の再開館時は、需要が高まり混雑が予想されることから、混雑対策として一部事前予約を取り入れるなど、利用者の利便性を高めつつ多くの方にご利用いただけるような体制を検討していく。</p> <p>館の保全、展示物のリニューアル工事に関しては、札幌市教育委員会や設計業者、施工業者と連携・協力し、展示物の適正な運用に係る助言や、実演の開発、リニューアル後の館を活用した新たな事業企画などに積極的に関与し、再開館に備えて準備を進めていきたい。</p>
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>休館にともない、常設展示を行えないなか、実演展示、企画展示、特別展示などにより、「見て、触れて、考える」という科学館のコンセプトを実施したことを評価する。また、SNSを活用し、直接科学館に行くことができなくても、科学に触れる気合を提供したことについても高く評価する。</p> <p>今後は大規模なリニューアルを行う予定であるが、リニューアル後は科学館がより一層市民に親しまれる施設となることを期待する。</p>	<p>今年度いっぱい休館となるが、今後も可能な限り事業をスクラップ(休止)するのではなく、市民にとって科学を楽しく学べる場を提供するための創意工夫に努めること。</p> <p>市内幼稚園等へ出向いたり、人通りの多いところで企画展・特別展を行う等の出張イベントは、子どもから大人までの幅広い層の参加者が科学への興味・関心を深めてもらえる良い機会になるため、今後も何らかの形で継続できるように検討していきたい。</p> <p>また、来年度はリニューアルオープンにともない、利用数と同時に、予期せぬトラブルも増えることが予測されるが、現在の準備期間中に、想定可能なトラブルに対するマニュアルを作成するなどし、開館後も、利用者が気持ちよく利用できるような科学館にしていきたい。</p>